

ハザードマップがあるだけでは、『いざ避難!』という時に円滑に避難できない可能性があります。ハザードマップに書いてある情報を参考にして、各自が災害へ備えをしてください。
また、このハザードマップに、「自分が知っておくべき危険箇所」、「我が家の避難場所」、「誰に連絡するか?」などの自分に必要な情報を書き込んで、【あなたのためのハザードマップ】を作成してください。

わが家の防災メモ

家族や親戚、ご近所の方などと話し合い、避難する場所を決め、連絡先等を書き込み、万が一の災害に備えましょう。
また、離ればなれになった場合を考えて、集合場所も決めておきましょう。

わが家の避難場所 (2箇所以上)	名称	
	名称	
	名称	
離ればなれになった時の集合場所	名称	連絡方法
緊急時の連絡先	名称	☎
地域の連絡先	名称	☎

一緒に避難する人	住所	電話番号

災害用伝言ダイヤル『171』

大規模な災害により電話が繋がりにくくなった場合、安否確認を行うための『災害用伝言ダイヤル』が開設されます。(平常時は利用できません)



被災者の方
自宅の電話番号、または連絡を取りたい被災地の方の電話番号をダイヤル
(被災者の方は積極的に安否情報を発信してください)

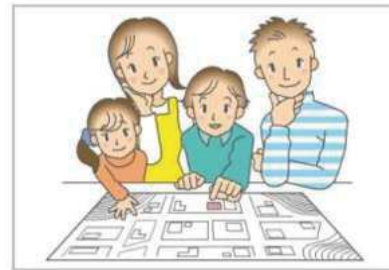
被災者の方
連絡を取りたい被災地の方の電話番号をダイヤル

体験利用提供日
下記日程で「171」の体験利用ができます。
●毎月1日、15日
●正月三が日(1月1日~1月3日)
●防災週間(8月30日~9月5日)
●防災とボランティア週間(1月15日~1月22日)

災害用伝言板

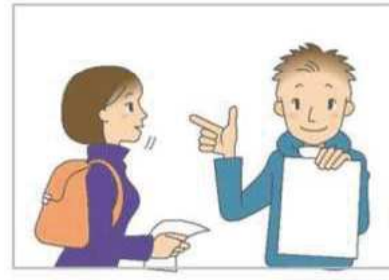
大規模な災害が発生した時に、各携帯電話会社が提供する『災害用伝言板』が開設されます。登録された伝言は、インターネット接続が可能なパソコンや他社の携帯電話からも確認できます。

- NTTドコモ ▶ <http://dengon.docomo.ne.jp/top.cgi>
- au ▶ <http://dengon.ezweb.ne.jp/>
- ソフトバンク ▶ <http://dengon.softbank.ne.jp/>



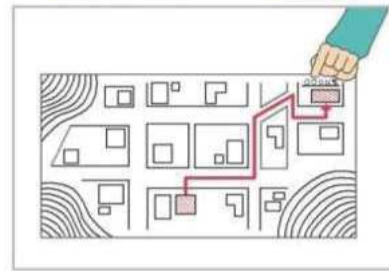
① 自宅の位置を確認する

まず、自宅の位置に印をつけましょう。



② 浸水想定区域などの危険な場所を確認する

ため池の決壊による被害が想定される範囲(浸水想定区域)は、4段階に色分けされ、示されています。自宅周辺や通勤、通学路でこれらの危険な場所を確認してください。



③ 避難する場所を確認する

市では、地区ごとに避難する場所を指定していませんので、地図で最も安全な場所を2ヶ所以上確認してください。近くに指定緊急避難場所・避難所がない場合は、それ以外の安全な場所を確認し、地図面と『わが家の防災メモ』に書き込んでおきましょう。



④ 安全な避難経路を考える

自宅から最寄の避難所等(③で決めた場所)までの避難経路を考えて書き込んでおきましょう。できるだけ「浸水想定区域などの危険な場所」を避けて設定しましょう。



⑤ 災害時の対応のしかたを話し合う

「自宅周辺の危険箇所」、「避難所等」、「避難経路」、そして「避難のしかた」について、家族やご近所の方とあらかじめ話し合ってください。危険が迫った時に、自ら避難できるようにしておく事が重要です。また、支援が必要な方の避難支援や避難の手段などについて話し合っておくことも重要です。



⑥ 自分たちの目で避難経路を確認する

②~⑤で確認した施設や経路について、実際に家族や近所の人たちと歩いてみましょう。そのときには、「施設や経路が安全か?」を確認するとともに、避難する際に注意すべきことや目印(目標)になるものを、自分の目で確認し、共通の情報として記録しておきましょう。

⑦ 非常持出品を準備しておく

左下部分に記載されている「非常持出品」欄を参考に、避難するときのための持出品について話し合い、必要なものを準備しておきましょう。

長野市ため池ハザードマップ

長野市農林部農地整備課
〒380-8512 長野市大字鶴賀緑町1613番地
TEL:026-224-5039 FAX:026-224-7812

避難の心得

いざ避難となった時に、慌てず行動できる様に「避難にあたって」や「非常持出品」を参考に準備しておきましょう。また配布されている「長野市防災マップ」にも様々な災害時の情報が記載されています。参考にしてください。

避難にあたって

避難所に到着するまでには、多くの危険が潜んでいます。避難にあたっては、まず正確な情報を入手し、周辺の様子に注意してください。そして、できる限り危険な場所を避け、ご近所の方と協力して、なるべく早めに避難してください。



早めの避難を心がけましょう

浸水してからの自宅外避難は危険です。降雨や河川水位などの情報をもとに、身の危険を感じたら、避難勧告を待たずに自主避難を開始してください。

ご近所の方などに声をかけて避難する

単独での避難は避け、隣近所に声をかけて避難しましょう。特に高齢者や子ども、病気の人など早期の避難が必要な人たちの避難にも協力してください。

なるべく歩いて避難

自動車が水に浸かると動かなくなったり、水圧でドアが開かなくなり大変危険です。また、緊急車両の進行の妨げになります。

河川や用水路には近づかない

水位が急激に変わることがあるので、河川や用水路などを避け、なるべく浸水していない場所を通りましょう。

非常持出品

家族や地域の人たちと防災について話し合い、いざという時のために日ごろから備えておきましょう。

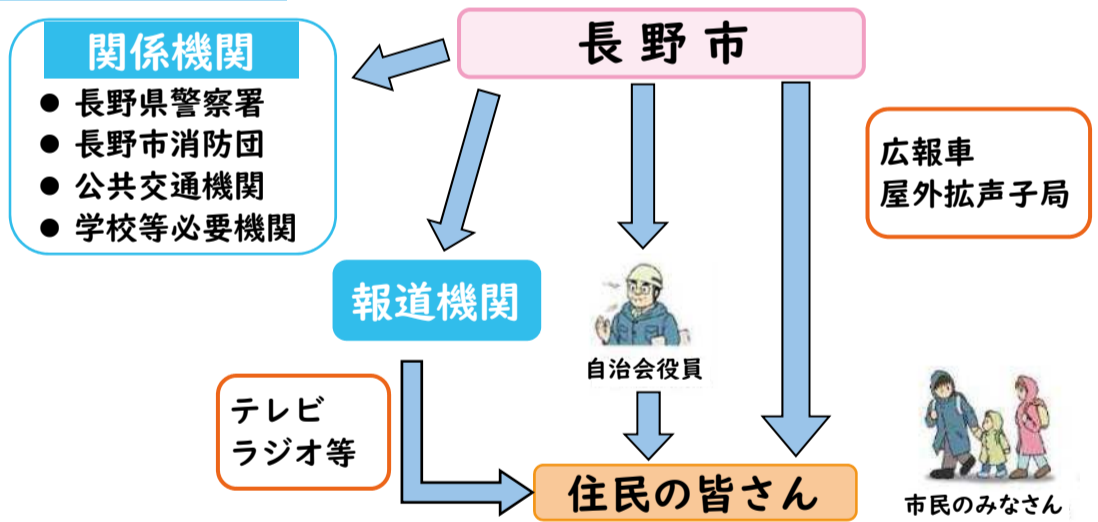
非常食品 <input type="checkbox"/> 食料(チョコレート・クラッカー・缶詰・レトルト食品など) <input type="checkbox"/> 飲料水 <input type="checkbox"/> 各ご家庭の状況により必要なもの 乳幼児向けの粉ミルクなど	衣類・生活用品 <input type="checkbox"/> 衣類(下着・上着・靴下など) <input type="checkbox"/> タオル <input type="checkbox"/> テッシュ・ウェットティッシュ <input type="checkbox"/> 軍手・雨具・ビニール袋 <input type="checkbox"/> メガネ・入れ歯 <input type="checkbox"/> 生理用品・紙おむつ など	応急医療品など <input type="checkbox"/> ばんそうこう・包帯 <input type="checkbox"/> 三角巾 <input type="checkbox"/> 消毒液・傷薬 <input type="checkbox"/> 目薬 <input type="checkbox"/> 常用薬 <input type="checkbox"/> 健康保険証・処方せんの写し
照明器具 <input type="checkbox"/> 懐中電灯 <input type="checkbox"/> 予備の電池 (多めに用意しておく) <input type="checkbox"/> ローソク <input type="checkbox"/> ライター など	その他 <input type="checkbox"/> 携帯ラジオ(FM付き) <input type="checkbox"/> 帽子(ヘルメット) <input type="checkbox"/> ナイフ <input type="checkbox"/> 携帯電話と非常用充電器 <input type="checkbox"/> 現金 <input type="checkbox"/> 筆記用具 など	・男性15kg、女性10kg目安にまとめる。 ・飲料水と食料は最低3日分、できれば7日分用意する。 ・1年に1回は点検し、期限のあるものは入れ替える。 ・1箇所だけでなく車やベランダなど、分散して保管する。 ・その他、『わが家の家族』に必要なものを用意しておく。

みんなで災害を未然に防ぎましょう!

- 日常管理**
- ・堤体の草刈を定期的に行い、ため池のり面に亀裂がないか、漏水がないか確認しましょう。
 - ・余水吐周辺の清掃を行います。(大雨時にここが閉塞すると危険です。)
 - ・年に1回はため池柵を抜き、ため池を空にして通常点検出来ない部分を確認しましょう。
- 緊急対応**
- ・台風などの大雨で、水位の上昇が予想される場合は、ため池柵を抜き水位を下げましょう。
 - ・決壊の恐れがある事象を確認した場合には、『長野市』に直ちに連絡しましょう。

情報伝達経路

長野市では、災害に関する的確な情報を収集・分析し情報提供をします。なお、長野市からの情報より早く災害が発生する可能性もあります。危険を感じたら早めに避難することを心がけてください。



豪雨・地震による、ため池の決壊メカニズム

・豪雨時に大量の雨水がため池に流入し、貯留水が堤体を越流すると、越流水によって堤体が浸食され非常に危険です。また、雨水が下流法面に大量に浸み込むと、下流法面が崩壊する場合があります。

・地震時には揺れによって土の強度が低下して、法面の崩壊や堤体の沈下により決壊することがあります。

被災形態	被災メカニズム
＜越流破壊＞	豪雨や洪水吐の閉塞により、貯水位が急激に上昇し、堤体を越えて流れ出すと、下流法面を浸食することによって、破壊する場合があります。また、貯水位の上昇により、堤体内の水圧も上昇し、強度が低下して破壊する場合があります。
＜すべり破壊＞	貯留した水と降雨が堤体の中に浸透して、堤体内部の水分量が増加し、堤体の法面の強度が低下することによって、法面部ですべりが発生し破壊する場合があります。
＜浸透破壊＞	堤体内部が劣化して、水を運ぶ機能が低下すると、貯水位が上昇した時に堤体の中の水圧も上昇して強度が低下し、破壊する場合があります。また堤体内に上流から下流まで貫通した水みちが発生し破壊する場合があります。
＜土石流による決壊＞	上流域の山林等の崩壊により発生した土石流等の流入により堤体が破壊される場合があります。

もし、ため池決壊前兆現象を見たら?

- ① 自身の安全を確保したのち市役所に連絡をください【市役所:026-224-5039】
- ② 浸水想定区域の外へ移動してください
- ③ 避難所へ避難してください

被災形態	被災メカニズム
＜クラック＞	堤体の頂部などにクラック(亀裂)が発生する場合があります。堤体の上下流方向に生じるクラック(亀裂)は水みちとなることがあり、特に注意が必要である。
＜沈下＞	堤体の形状をほぼ保ち、クラック(亀裂)などを伴いながら堤体が沈下する場合があります。多くは軟らかい地盤で発生している。
＜斜面崩壊＞	堤体法面の上部が沈下し、下部がはらんで変形が生じる場合があります。
＜斜面すべり＞	地震動により堤体の法面にすべりが発生する場合があります。
＜崩壊＞	堤体や地盤が大きく変化し、崩壊する場合があります。決壊に至ることが多く、堤体や基礎地盤の液状化によるものと考えられる。